

- 立山町と常願寺川 -

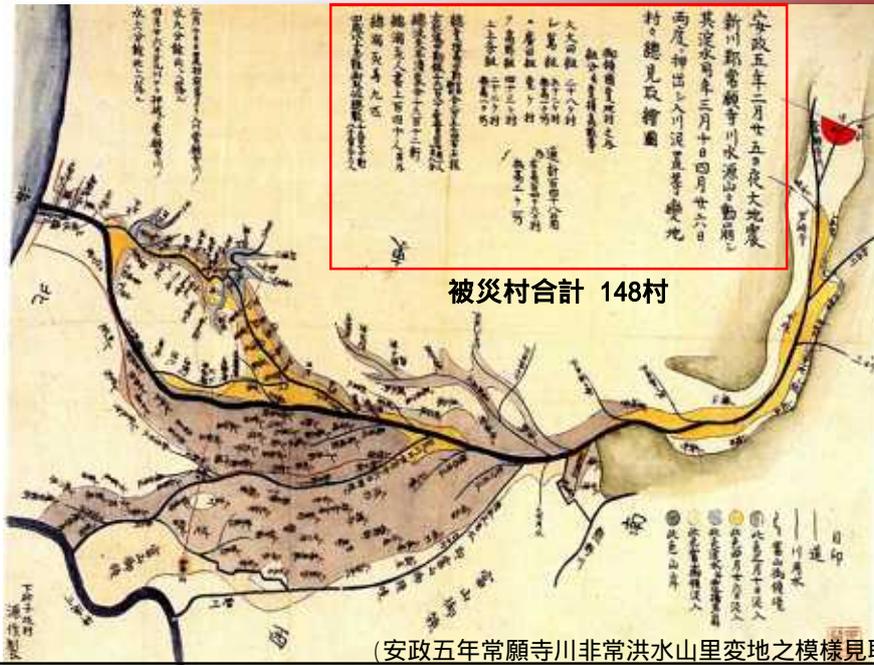


- 安政5年(1858)、飛越地震による鳶山崩れ -

1858年4月9日飛越地震が発生。立山カルデラの一角、鳶山が崩壊し、約4億 m^3 と言われる土砂が川をせき止めた。



- 大土石流の氾濫による被害 -



- 安政の大土石流の激しい爪痕 -

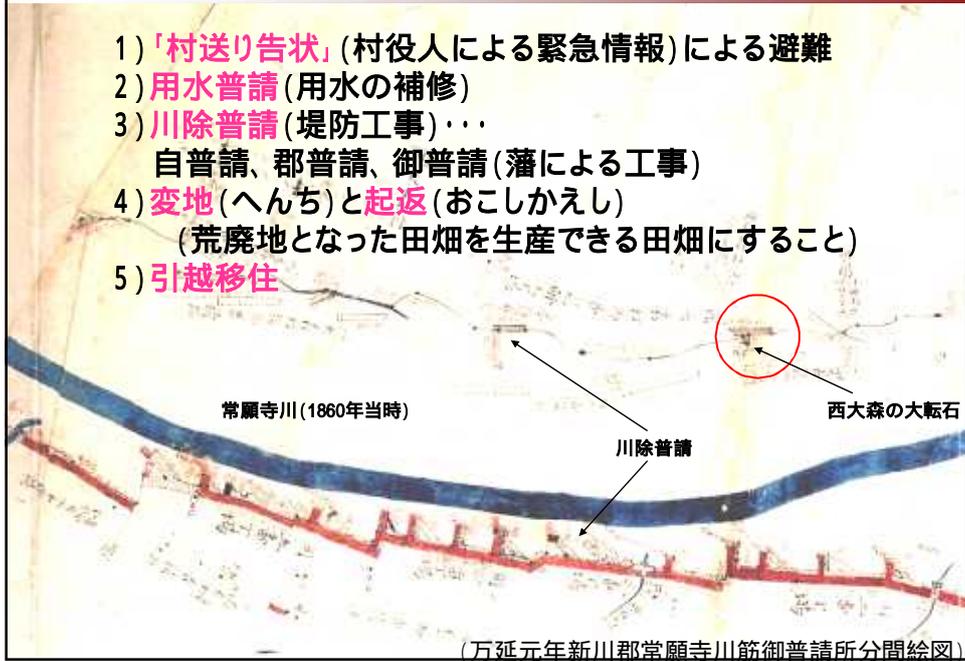


安政の大土石流による被害	
・耕作壊滅不毛となった石高	33,176石
・流出・潰倒家屋	1,610棟
・死者	140名
・負傷者	8,945名

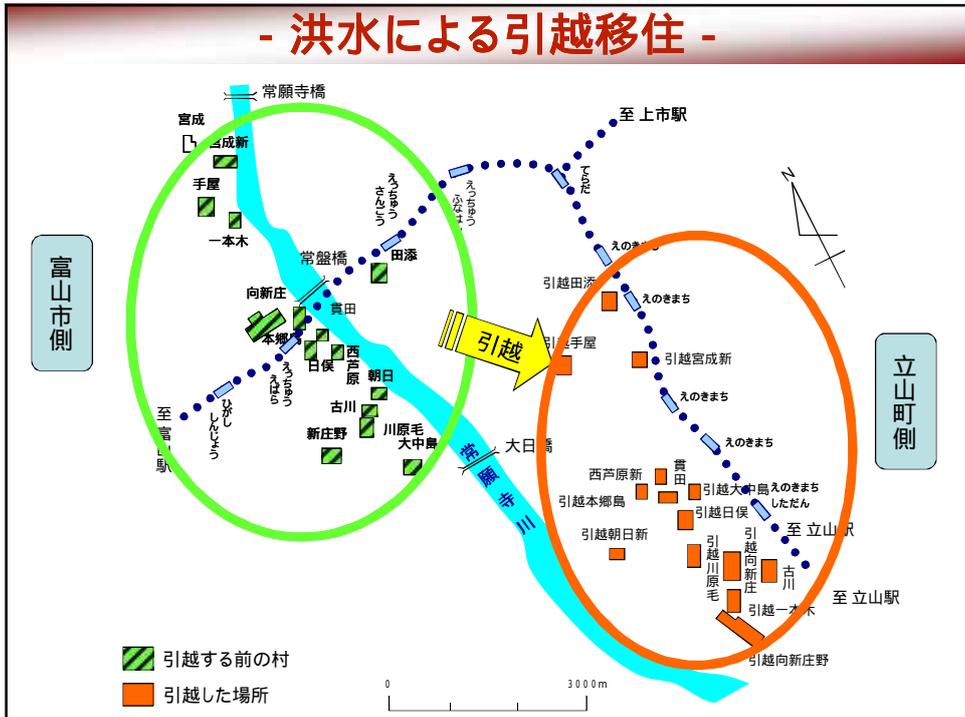
西大森の大転石(推定重量600ト)

- 住民による災害対策、復旧・復興 -

- 1) 「村送り告状」(村役人による緊急情報)による避難
- 2) 用水普請(用水の補修)
- 3) 川除普請(堤防工事)・・・
自普請、郡普請、御普請(藩による工事)
- 4) 変地(へんち)と起返(おこしかえし)
(荒廢地となった田畑を生産できる田畑にすること)
- 5) 引越移住



- 洪水による引越移住 -



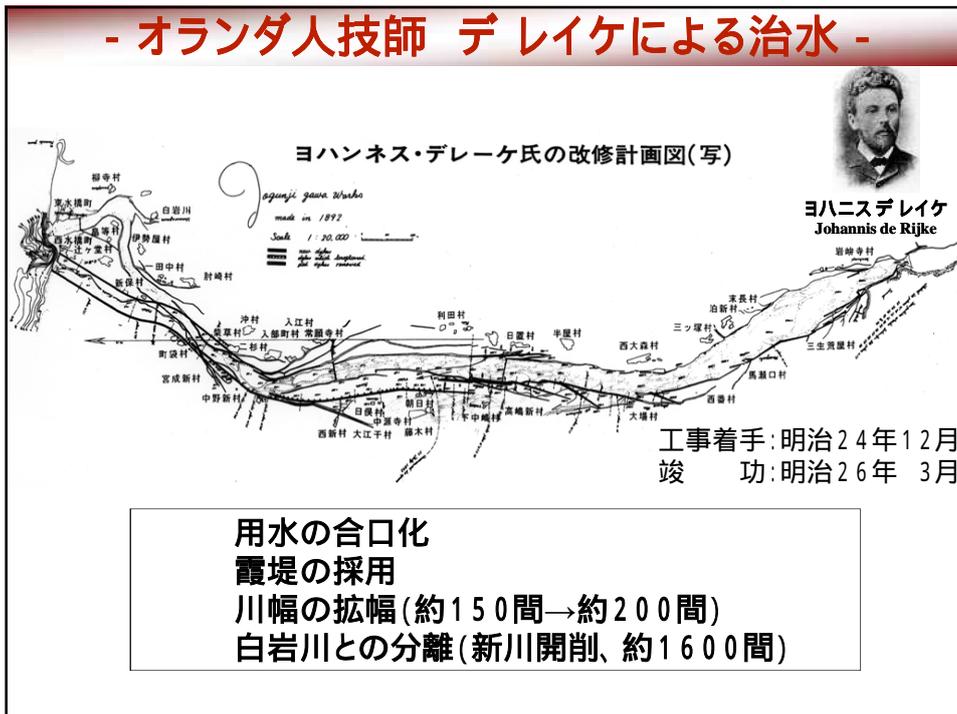
- 土砂の流出による河床の上昇 -

安政5年大土石流の堆積により大日橋付近では川の床の高さが約8m上昇。さらにその後の土砂流出により5m上昇、洪水が頻発、危険性が増した。



天井川(昭和13年頃 大日橋の状況)

- オランダ人技師 デレイケによる治水 -



- 明治二十年代の状況 -

「利田村周遊唱歌」に

歌われた災害とテ・レーケ

(前略) 想ヒ起セバ数年前、大洪水ノ
アリシ時、逆マク波ノ勢ヒニ、流石堅
固ノ堤防ヲ、瞬ク間ニモ決壊シ、数十
ノ人家押シ流シ、数百余町ノ田園ハ、
全ク荒蕪トナリニケリ。

サレハ有土ノ間ニモ、再ヒ築堤ノ議
ヲ決シ、国庫ノ補助ヲ仰キツツ、
「テ・レーケ」工師設計テ、数十万余
ノ大金ヲ、改修工事ニ拠出シテ、山カ
岡カト疑ハル、築ク堤防ハ利田前ト、
其ノ名ハヨモニ轟ケリ。其ノ名ハ四方
ニ轟ケリ。

- 富山県営砂防工事の実施 -

カルデラからの土砂の流出を止めるため、明治39年(1906)から大正14(1925)年まで、富山県により333砂防設備が建設された。しかし、土石流の度重なる発生でほとんどの施設が破壊された。



西谷川の巨石積み砂防えん堤群(1923)



大正8年頃の湯川第1号砂防えん堤

立山砂防国営化への地元の取り組み

砂防法の改正 (大正十三年七月)

砂防法の改正が議論された。しかしこの改正は、前年の関東大震災によって被災した神奈川の五河川を対象とするもので、財政上の理由から、常願寺川を対象とするものではなかった。

石坂豊一代議士(富山第三区)、寺島権蔵代議士(富山第四区)により、同一程度以上の荒廃河川、常願寺川に対し本法の適用を希望する希望意見を陳述。

長年被災地が渴望していた砂防法が成立
 原案に右記希望条件を付した案が起立多数で成立。
 立山砂防国営化の道が開かれた。

国営化の予算要求 (大正十三年十一月)

三百万円を予算要求したが、大蔵省内の査定で削除

常願寺川治水期成同盟会(大正十一年富山市、上新川郡、中新川郡の有志が集まり、国への働きかけを強めるために造れた組織、会長金岡又左衛門)による幾度の要望により、予算化

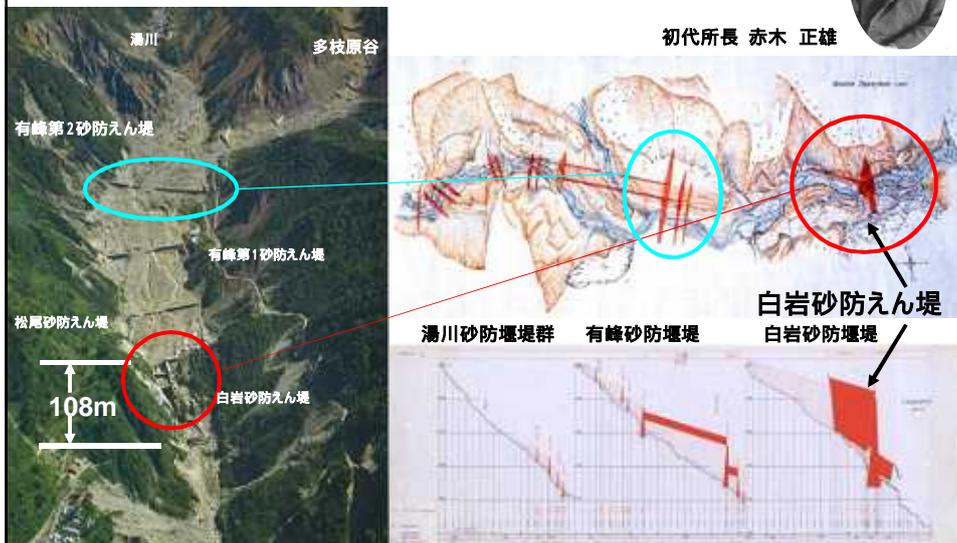
昭和四十七年、全国治水砂防協会立山支部を設置し、地域の安全安心のために活動

- 赤木正雄の常願寺川砂防計画 -

大正15年(1926)に県営砂防工事は国による砂防工事に引き継がれた。



初代所長 赤木 正雄



- 白岩砂防えん堤 -

近代砂防施設の一つの技術的到達点を示し、今なお富山平野を土砂災害から守り続ける現役の国土保全施設として平成21年6月30日、重要文化財に指定される。



現在の白岩砂防えん堤 (H20撮影)

- 現在も天井川の常願寺川 -

車の大きさと比較して、みると堤防の高さが想像できると思います。
(堤防の高さ: 約13m)



常願寺川の堤防の高さ

- 地域で取り組んでいる事 -

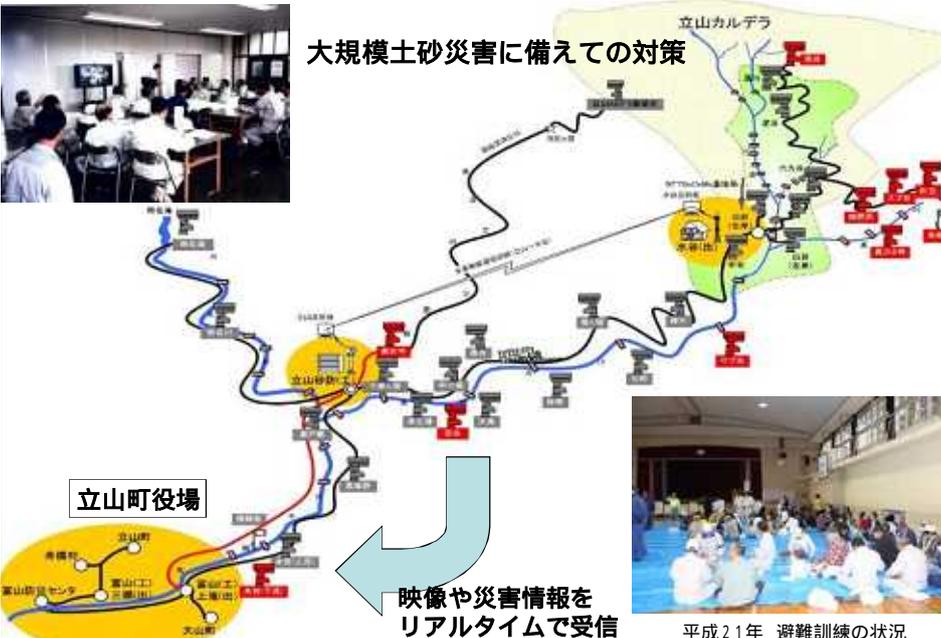


立山カルデラ砂防博物館
平成10年6月完成
平成20年5月8日、50万人突破

防災教育の推進(上流を知る事)

- 立山町民の参加による避難訓練 -

大規模土砂災害に備えての対策



立山カルデラ

立山町役場

映像や災害情報をリアルタイムで受信

平成21年 避難訓練の状況

The diagram shows a map of the Tateyama region with various evacuation routes marked in red and blue. Key locations include Tateyama Caldera, Tateyama Town Office, and several evacuation centers. A large blue arrow points from the map towards the text '映像や災害情報をリアルタイムで受信' (Receiving video and disaster information in real-time). An inset photo shows a classroom setting for disaster education, and another inset photo shows a group of people participating in an evacuation drill.

- 砂防を推進するためのイベント -

国際砂防フォーラムの開催

16日に富山市で開催される「国際砂防フォーラム2009」で特別講演するスチュアート・スミス富山県事務局長

立山の砂防施設を視察

スミス氏 きょうフォーラム

らほ5日、立山の砂防施設などを視察した。フォーラムに参加するジャマタ大のシヨコ・レゴノ教授、省立山形大学事務所の通らた一行は、化研環境研究所の重要文化財の白岩砂防堰堤を視察した。



砂防施設を視察するスチュアート氏

平成21年10月16日 富山新聞



平成18年8月25日
常願寺川砂防100周年の集いにて



平成21年8月19日
白岩砂防えん堤重要文化財記念式典 除幕式にて

- 地域の進展 -

砂防対策が進み、安全度が向上するに従って、企業の進出が進む。しかしながら、天井川は未だ解消されず、引き続き安全度の向上が必要。



利田地区天井川近くの工場誘致

- 富山平野の現在 -

150年前、巨石が累々と堆積した扇状地に、今は約8,000haの優良農地が広がる。



常願寺川河口から見た富山平野